

強くてあたたかい音を 求めて



[profile]

1974年生まれ
前橋在住
二期会会員

<http://www.smilestone.co.jp/morota/>

artist



ミラノでのオペラ出演（右から2人目が諸田さん）

幼少時代よりピアノのほか絵画や書道にも興味を持っていた諸田さん。高校在学中に声楽の道を目指し、秋谷誠一先生のレッスンを受け、群大では古沢泉先生と出会い指導をうける。その後、ロータリー財団の奨学生としてイタリアに渡り発声の基本とオペラを学ぶとともに、「カヴァレリアススティカーナ」のローラ役などを演じるなど充実した日々を送る。

多くのものを学んだ4年間の留学から戻り芸大大学院に入学、在学中ケルビーノ役で華々しくデビュー。「ケルビーノは有名な役だからこそそのプレッシャーもありましたが、会場全体のブラヴァーという絶賛を受け、聴衆と一体感を感じることが出来た思い出の舞台です」と嬉しそうに語る。

イタリア人のような表現力・響きのある声質が



『フィガロの結婚』ケルビーノ役

認められ、諸田さんは今年10月の舞台「ジュリアス・シーザー」ではクレオパトラの弟トロメオ役に抜擢された。研修中に二期会でのデビューが決まることは稀で素晴らしいことだという。

多忙な日々を追われる諸田さんも、休日には映画を見たり美味しいものを食べたりして時間を過ごす。料理の腕もイタリア仕込みで、パスタは家族にも大変評判がよいとのこと。

オペラはわかりづらい高尚なものではなく、ドラマティックな人生を表現するもので、自分の生活とオペラの中の人生模様に見いだしたとき、人はオペラのとりにこになると言う。諸田さん自身も師匠であるプリマドンナ林康子さんの「蝶々夫人」の舞台を観たとき自然と涙が出るほどの感動を体験した。

9月24日の地元高崎でのリサイタルは文化庁在外研修制度による再渡伊を記念して行われる。「外国語の歌詞がわからなくても、オペラとの出会いを感じてもらえるような、体の芯に伝わる強くてあたたかい音を表現したい」と話す諸田さん。今後の一層の活躍が期待される。